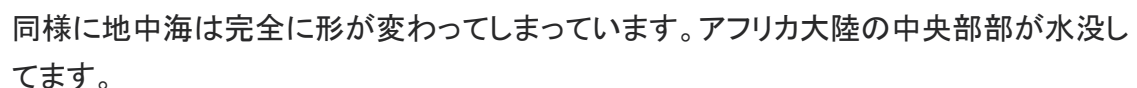


https://jp.quora.com/%E5%9C%B0%E7%90%83%E3%81%AE%E8%87%AA%E8%BB%A2%E9%80%9F%E5%BA%A6%E3%81%8C%E4%B8%8A%E3%81%8C%E3%82%8C%E3%81%B0%E9%81%A0%E5%BF%83%E5%8A%9B%E3%81%A7%E7%A7%81%E3%81%AE%E4%BD%93%E9%87%8D%E3%81%AF%E8%BB%BD%E3%81%8F

自転周期が3時間のケースくらいから、見た目でおかしいことに気が付きました。遠心力によって海水が赤道付近に集まっている感じです。日本の太平洋側は小笠原諸島付近まで海底が露出しました。オーストラリアは、中央の砂漠の地域に海水が流れ込んできています。





北アメリカ周辺は水が引いて、逆にアマゾンの地域が水没しました。



- みなさんお待ちかね！ 自転周期が1時間のケース

速度	0.0 m/s
自転周期	1.00 時間
年齢	4.50 ギガイヤ

強烈な遠心力によって地球のマントルが地殻を突き破って、宇宙空間に向かって打ちあがります。



海水も含めて赤道付近の地殻下からマントルが宇宙空間に向かって打ちあがります。日本付近の海水はすべて赤道付近へ移動し、おそらくマントルと共に宇宙空間まで飛ばされますが、地球の引力を振り切るほどの速度は無いので、しばらくして再び大気圏に隕石として落下してきます。



宇宙空間に打ちあがった日本の本州程度のマントルが複数打ちあがると共に大西洋の南半球付近から地殻津波のようにして、マグマが地球全体を包み込んでいきます。



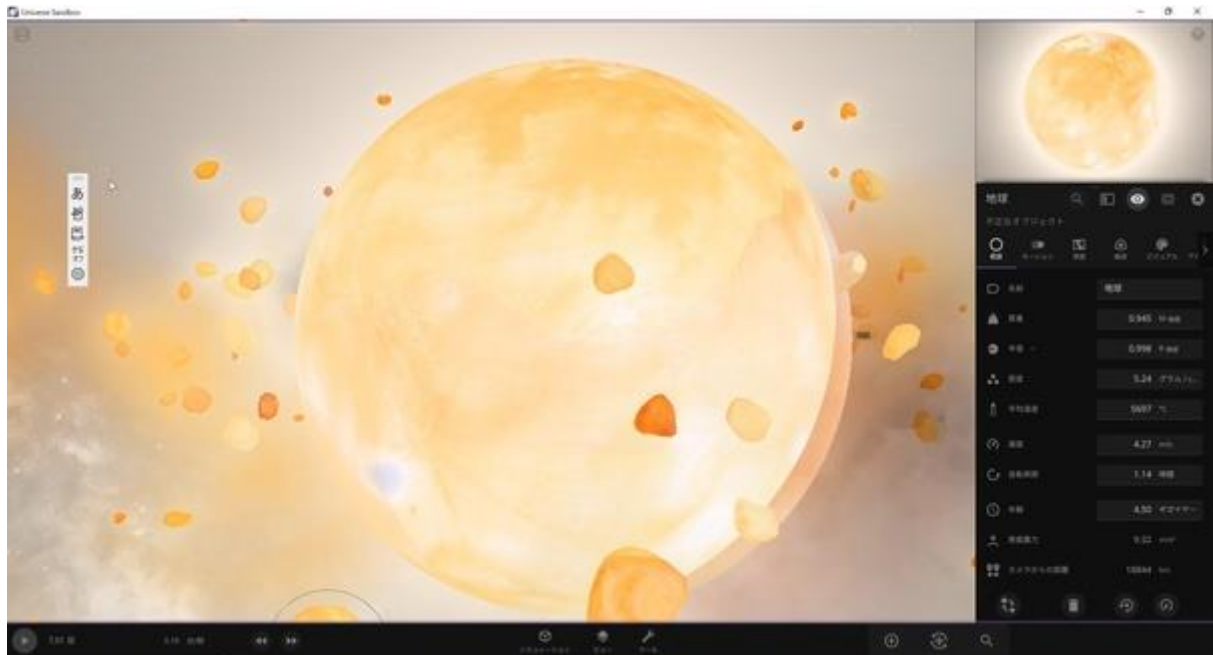
ちょうど地球の真反対が日本の位置でもあることから、地殻津波が襲ってくるのはちょうど日本の沖合から赤道付近にかけての地域が最後で、地球の質量の0.3%程度が宇宙空間に飛ばされました。



地球の自転によって地球の内部から、あたかもミキサーにかけられているように、地球内部の温度が急激に上昇していきます。地殻はもはや存在せず、個体であったものが莫大

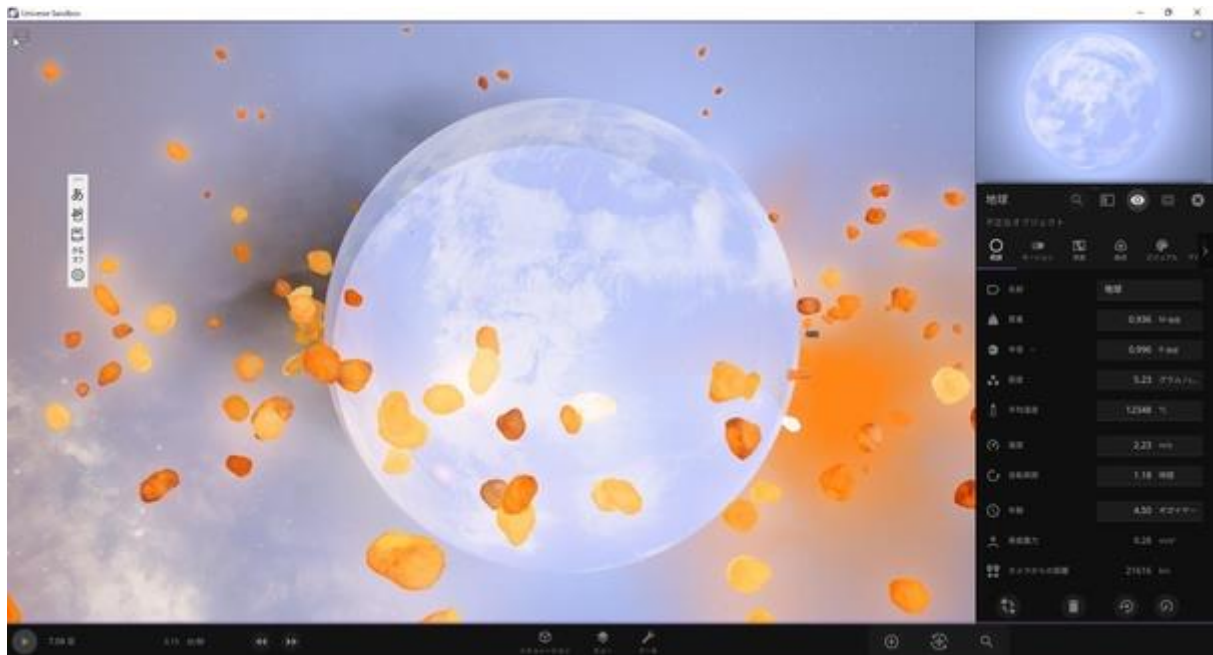
なエネルギーによって液体状の溶岩によって地球表面の温度は6000度近くまで上昇しました。

そして、そこに宇宙空間に打ち上げられた日本サイズの隕石がどんどん落下、あるいは再び遠心力によって打ち上げられるものもあり、およそ地獄絵図となっています。



地球表面の温度は上昇し続け、10000℃を越え、青白い光を放つようになりました。この時点で、地球はまだまだ「岩石惑星」なのですが、あたかも恒星のような雰囲気を持つようになりました。

そして、土星のリングとは大きく異なりますが、しかし、大量の岩石を宇宙空間に飛ばして、地球の質量は0.945倍まで小さくなりました。地表温度は12340℃を越えました。質量が若干小さくなったため、重力は9.28m/s² となりました。



シミュレーション開始からおよそ1週間程度です。

地球の慣れの果てです。生物はもはや住んでいません。

